

審判講習会 参加報告書

平成29年 4月 3日

報告者 二宮 光司

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	東日本大震災復興支援 JX-ENEOS 第30回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会2017
参加者 (報告者)	二宮 光司 (所属カテゴリー) 中体連
期 日	平成29年 3月27日(月) から 平成29年3月30日(木)
会 場	東京体育館・越谷市立総合体育館・上尾運動公園体育館・市川市塩浜市民体育館 浦安市運動公園総合体育館・横浜文化体育館・川崎市とどろきアリーナ
講 師	九州・四国ブロック上級審判員
参加者	各都道府県推薦審判員47名、自費審判員、関東派遣審判員等
報告① 実技講習	<input type="checkbox"/> 実技講習 ファンダメンタル 1対1～3対3までの見方 ■講習内容 4班に分かれて3パターンのファンダメンタルトレーニングを行った。 ① スローインからバックコートの1on1(newトレイルのみ) ② フロントコートの1on1 i) エリア1からのスローイン ii) エリア3からのスローイン ③ フロントコートの3on3 i) エリア1からのスローイン ii) エリア3からのスローイン iii) エリア5からのスローイン 四原則の徹底を基本とし、長く、ステイをしてプレイをとらえるようにレクチャーがあった。「ステイする」＝「動かない」のではなく、「素早い位置取り」を心がけ長く止まっておくという考え方をするようにご指導いただいた。それにより、判定の“ズレ”や“ブレ”をなくすことにつなげてほしいとアドバイスいただいた。
報告② モデルゲーム	<input type="checkbox"/> モデルゲーム つくば秀英 対 上溝南 主審 二宮光司(報告者) 副審 立花 正司氏(埼玉県) 主任 森田将史氏・中井将基氏 ■講習内容及び ミーティング内容 シグナルやプレゼンテーションは非常に丁寧で、力強さがあつたので続けてほしい。ファウルを取り上げた判定の中で、取り上げた意図は分かるが、プレイが続けられる状態のケースがあるので我慢してほしい。RSBQをしっかりと見極めて判定をするようにアドバイスいただいた。

<p>報告②</p> <p><input type="checkbox"/> 講義</p> <p><input type="checkbox"/> 実技講習</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□ゲーム 主審 石川 淳也氏(大阪 A 級) 副審 二宮 光司(報告者)</p> <p>コート主任 足立 尚隆氏(愛知県)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>男子予選 N リーグ 千葉 対 福井</p> <p>すでに 1 敗している千葉が入りから激しくプレイしてくるので、手の使い方や体の寄せ方に注意を払ってゲームに入るようカンファレンスを行い、メカニクスに関しては、右側のポストプレイに関してリード主体でポジショニングを決めるように打ち合わせをしてゲームに臨んだ。</p> <p>ゲーム後のミーティングでは、福井の選手が千葉のドライブに対して飛び込んでくるケースが何度もあり、全てブロッキングの判定をしていたが、DF の入りが遅れていたのか微妙なケースもあった。ダブルコールが多かったが、本当に 2 人ともが鳴らしてよかったものなのか、視野分担を考えると、シングルコールになるべきではないのかというケースが見られたと指摘していただいた。</p>
<p>所感</p>	<p>今回 4 度目となる Jr オールスターで、自分自身の課題に悩む場面が多い 4 日間でした。これまでの取り組みや、積み上げてきたものをもう一度見直し、改善につなげていかないと成長がないと実感する大会になりました。「割当は誰も保証してくれない。自分で勝ち取るしかない」という言葉を痛感しました。</p> <p>2017 年度は、いよいよ愛媛国体が開催される年となりこれまでの数年間のレフェリーとしての積み上げを実践する場がやってきます。秋の国体のコートに 1 試合でも多く立つために残り半年、もう一度原点に戻り、謙虚な気持ちで審判活動に取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>この度は、Jr オールスターに派遣させていただいた愛媛県バスケットボール協会の皆様をはじめ、指導、助言いただいた四国ブロック及び愛媛県審判部のみなさまに深く感謝申し上げます。</p>